

# 藤枝大祭りの歴史と見どころ



# 長唄・地踊り

		1845	1881	1899	1902	1906	1909
町名		弘化2	明治14	明治32	明治35	明治39	明治42
木町		「浦島太郎」	不明	「源 頼義」	「牧童」		「義士討入」
栄	(河原町・西町・辻町)	不明	「鯉の滝昇り」	河「天竺徳兵衛」 辻「花さき爺」	「松前鉄之助」		「小島高德」
上传馬		「能事聞」	「弁慶勸進帳」	「仁田四郎」	「菅公」		「天の岩戸」
千歳	(鍛冶町・吹屋町)	不明	「百舌鳥」	「源 頼光」	「神功皇后」	「神武天皇」	「曾我草摺」
長楽寺		不明	「福祿寿」	「角兵衛獅子」	「張飛」	「孝子」	「太田道灌」
白子		「竜宮」	「朝比奈三郎」	「仁徳天皇」	「浦島」	「新田義貞」	「狐忠信」
下伝馬		「上棟」	「蝸」	「牛若丸」	「弁慶」	「源 頼光」	「甚五郎京人形」
左車		「鶴」	「鼠」	○屋台	○屋台 長唄「浅妻」	○屋台 長唄	○屋台 長唄
市部	(横町)		「奴唄に箱提灯」	未定			

・祭りの華は、高層の人形山車から  
本物の長唄演奏による地踊りへ

・1882年(明治15)、左車町出身の三代目芳村金五郎(のちの六代目伊十郎)が、青山八幡宮の祭礼に出演。

・明治39年、左車町は芳村伊十郎を招いて長唄を披露。



# 大正期

- ・1916年(大正5)の大祭りより、  
全町長唄による地踊りを開始





車山ノ區町木



車山ノ區榮



車山ノ區歳千



車山、區寺梁長



拍扇左巻門

車山、區子白



車山、町橋下

### 藤枝郷社飽波神社大祭各町餘興曲歌

#### 木町區

○俄獅子 (青年の唄)

心づくのナアそのまづうつかたなきる内 心一つに思ひ草よや歌の中合んたうてやうてうつわ太鼓がと持顔かさねて水道流を御神楽とばなちし延びと離れてもんらんから床の内たきく舞のにもと人入りつねならなり御神楽の色にうつつと離たかななりアレワテコソアコソい離かけなれどもな

○松竹梅管歌 (子供唄)

秋のなめめそのかづに中にけだかき男べし命のなげに朝顔の命を盛りと吹き抽ひままだいどけなきまでしや色香こぼれて萩精合誰か目によれしおまなへしつむらにまある 蟹風に原家の花よすよ

○網上大薩摩 (青年の唄)

夫れ天海日影を過ぎしあしたの雲のはらわられて水降は立ちぬ木町組目をばむる芙蓉の花 藤枝祭りの賑わしき。コソアコソアレシころがされるころされるはいとせせがたつたん結ふたびんの毛がさんばるはもつれるは七ツ邊には鳴かばねらなこいんのはこころ氣にかと湧れじや／＼見でないものわしやもの兜もころも願つともいないナツサ持つてゆけよつてゆけ

#### 榮區

○紅葉狩 (青年の唄)

秋の木並の色に出で紅葉踏むいそいそと金魚のふみく舞なる可きうしじやないかいな秋の千重の色に出しを菊ももよによいかなど舞かして遊ばせし可きをししやいかな

○末廣狩

へまか出し遊つしに遊ばあひて各のなつかせあひあひたにいねんのはのたかこのよだ人わ今日及戀の取のつかい遊事待の戀しよのふ縁かきや

○相模山 (子供の唄)

さいしよながもさるゝ各町がこる相模山この夏節もよしやより節の金鐘はは流の貝づくし命目隠しのろ見をさるゝ見ればまらん／＼月夜浴か武蔵野がめにあか祭色かな

青年人名

- 吉田宗一 杉本和一 岩澤新太郎 増田常太郎 杉山五郎
- 山本平作 渡邊徳次郎 塚本清俊 高野文太郎 岩畑榮吉
- 小宮孝一 杉本土次 中谷芳金 石野隆次 中谷榮吉
- 藤本留吉 増田彌一 日井良太郎 山内榮一 上野盛二
- 藤治作太郎 青島友吉 藤田朝次 山村好二 石川貞二
- 松永理一 小宮豊二 藤田久一 大塚配一 青木剛一

青年人名

- 堀江秀太郎 杉井元治 小宮紀一 岩崎隆 八木重次郎
- 富岡孝一 大畑新一 赤堀照平 青木又次 田中恭次



子つは月早 (歳七) 子つは月早 (歳三) 子つは月早 (歳六)



定有通年吉及志有蓮老中島傳上



中連子鶴回高傳上



一息孫天大 (歳七) 子おふ良久大 (歳九)



由四郎野良 (歳八)



形人、車山、區馬傳下



上段向右、持屋茶太郎、持屋勝之助、芳村金四郎、  
下段、芳村伊三郎、芳村甲子郎、高橋鶴太郎

行一節中浮、車山、區車左